

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

本校の国語・算数・理科の全国学力・学習状況調査における平均正答率は、いずれの教科も全国平均とほぼ同程度で推移しています。特に「知識・技能」領域では全国平均を上回る傾向があり、基礎的な知識や技能の定着が進んでいることがわかった。一方で、「思考力・判断力・表現力」や記述式問題においては、全国平均と比較して正答率が低い問題が複数見られ、特に理科の「エネルギー」分野や算数の分数・割合の活用に課題が顕著であった。

国語

- 強み：基礎的な語彙力や読解力が安定しており、短答式問題での正答率が全国平均を上回っている。特にインタビューの目的や経験からの気付きを選ぶ問題で高い成果を示している。
- 弱み：資料をもとにした記述式問題での正答率が低く、言葉の変化や理由をまとめて書く力に課題がある。

算数

- 強み：異分母分数の加法など基礎的な計算力が高く、短答式問題で全国平均を上回っている。資料から必要な情報を選び式と答えを書く問題でも良好な結果が出ている。
- 弱み：分数の単位分数理解や割合の活用にに関する記述式問題で正答率が低く、特に「10%増量」の意味を捉える問題で全国平均を下回っている。

理科

- 強み：実験結果から条件を予想する問題など、知識の活用力が高く、全国平均を上回る正答率を示している。
- 弱み：金属の性質や氷が溶けた水の行方に関する問題で正答率が低く、特に記述式問題やエネルギー領域で課題がある。

【国語・算数・理科】

全国平均と比較して良い傾向がある問題

教科	問題番号	問題の概要	問題の趣旨
国語	2四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す（あつい日）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる
国語	3二（2）	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる
算数	2（2）	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる
算数	1（2）	都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる
理科	1（3）	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる
理科	3（1）	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる

全国平均と比較して課題が見られる問題

教科	問題番号	問題の概要	問題の趣旨
国語	2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる
国語	3三（2）	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる
算数	1（1）	2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の全国のブロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる
算数	4（4）	10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる
理科	4（3）キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ	氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる
理科	2（3）	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる

【質問紙調査】

全国平均と比較して良い傾向がある主な項目

(1) ICT 活用に対する自信

「ICT 機器で文章作成ができる」：「インターネットで情報収集ができる」：「ICT 機器を活用することで楽しみながら学習できる」

→ ICT スキルに対する自己評価が全国平均以上で、活用意欲も高い傾向

(2) 自己肯定感・協調性

「自分にはよいところがあると思う」：「将来の夢や目標を持っている」：「人の役に立ちたいと思う」：「いじめはいけないと思う」

→ 道徳的意識が高く、自己肯定感や社会性に優れた児童が一定数存在

(3) 読書時間

1 日の読書時間は全国平均より高い傾向

全国平均と比較して課題が見られる主な項目

(1) 学習意欲・楽しさの認識

「学校に行くのは楽しい」：「自分と違う意見を考えるのは楽しい」

→ 学校生活や学びへの楽しさの認識が全国平均より低く、積極性に課題

(2) 教科に対する自信と理解度

国語：「授業内容はよく分かる」：算数：「授業内容はよく分かる」：理科：「授業内容はよく分かる」

→ 主要教科の理解度・自信が全国平均より低め。算数・理科に課題

(3) 授業満足度・教師との関係

「先生がよいところを認めてくれる」：「困りごとを先生に相談できる」：「理解できるまで教えてくれる」

→ 教師との信頼関係や個別対応に不足感を持つ児童が一定数存在

【指導の充実に向けて】

全国学力学習調査の分析結果を受け、児童の学力向上と学習意欲の育成に向けて、以下のような指導の充実を図ってまいります。これまでに引き続き、授業の初めには見通しを持って学習に臨めるよう「めあて」を提示し、授業の終わりには振り返り活動を推進します。特に「ふり振り返り」の活動を充実させることで、学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる力や、自ら課題を見出し解決する力の素地育成を目指します。また、振り返りを可視化し、他者との比較や共有を通じて学びを深める機会を設けることで、主体的な学習態度の育成にもつなげていきます。

👉【記述力の育成】

国語・理科の教科においては、記述式問題での正答率が低く、特に「根拠をもとに自分の考えをまとめる力」に課題が見られました。日常の授業から「理由を添えて説明する」「図や資料を根拠に考える」活動を意識的に取り入れ、記述力の育成に努めます。

💡【思考力・判断力の強化】

単なる知識の定着にとどまらず、複数の情報を比較・統合して判断する力を育てるために、探究的な学習やペア・グループでの対話活動を充実させます。聴き合う関係づくりを進めるとともに、自分の考えを発表する場面では、資料や文章、話の組立てなどを工夫する活動を設定し、児童の深い学びにつながる授業づくりに日々取り組んでいきます。

📊【データ活用の指導】

算数・理科では、グラフや表から情報を読み取り、適切に活用する力に差が見られました。実生活に即したデータを用いた問題解決活動を通じて、活用力を高める指導を行います。

教科指導の際には、正しい答えを出すことだけでなく、問題を解く過程を重視した指導に努めます。ベーシックタイムにおいては、読みを優先する漢字教育やeライブラリ（ICT）、100マス計算や本読み計算を活用し、基礎の積み上げや定着を図ります。特に、本調査で弱さの見られた領域や課題に対する補充に力を入れていきます。

保護者や地域との連携を図りながら、規則正しい生活習慣や家庭学習の習慣、学習の計画等に関する課題について、学校だよりや家庭学習の手引き等を活用し、さらなる啓発を進めてまいります。